令和5年度吉井川・旭川・高梁川水害タイムライン振返り検討会を開催

国土交通省中国地方整備局
岡山河川事務所
Okayama River Management Office
Chugoku Infra DX

○令和5年度の出水期の振返りや連携課題の抽出を目的とした、吉井川・旭川・高梁川水害タイムライン検討会を開催（令和5年12月15日（金）10:00～12:00）
○振返り検討会では、令和5年度の出水概要として、タイムラインの運用状況や、台風第7号の被害状況、全国の水害を振返るとともに、事前に実施した振返りアンケート結果を確認
○状況付与に基づく連携課題の抽出では、グループに分かれて状況付与と防災連携行動フローを確認し、防災行動の実態や連携課題について意見交換を実施

＜状況付与に基づく連携課題の抽出＞

- 事務局で作成した各テーマの防災行動フロー（案）を基に、状況付与に基づき防災行動の流れを確認する中で、防災行動の漏れや連携内容・課題を抽出

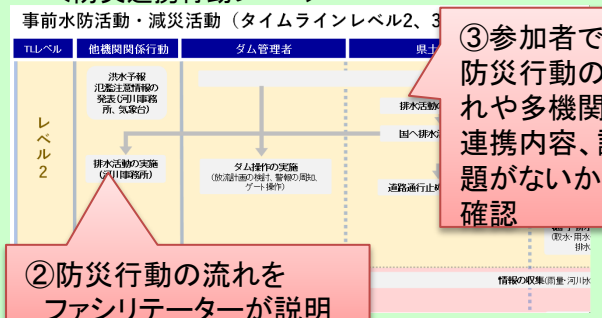
＜各グループの主な意見＞

テーマ	主な意見
A:住民避難	• 夜間に水害が発生した場合の避難情報の発令判断に課題がある。 • 様々な手段で避難情報を周知するが、住民に伝わらない場合がある。（地域住民、報道との連携が必要） • 避難の必要性が住民に伝わらず、避難情報を周知しても、避難に繋がらない場合がある。 • 避難所の不足を解消するために、民間施設も含めた避難所指定に向けた協定を進める必要がある。 • 広域避難に関する協議を行う必要がある。
B:事前水防災活動、減災活動	• 事前放流の判断は、独自の予測・判断を行っているが、気象台が発信している防災情報mailの雨量予測が参考になる。 • 地下街は複数の事業者がいるため、水防活動の開始のタイミングを合わせる必要があり、現在、関係者間で協議中である。 • 内水発生や通行止め情報は、県の防災情報ポータルにて確認・収集し、復旧作業のルート検討を行っている。

＜状況付与＞

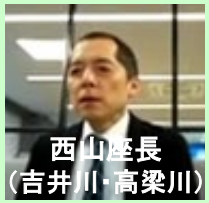
①状況付与（情報・状況）をファシリテーターが説明

＜防災連携行動フロー＞



②防災行動の流れをファシリテーターが説明

③参加者で、防災行動の流れや多機関の連携内容、課題がないかを確認



被害が大きくなる瞬間は、対応の判断に迷った瞬間である。一瞬の判断が被害の状況を変えてしまうため、迷った場合は、その原因が何なのかを分析して、来年度の出水期に備えてほしい。（西山座長）

西日本豪雨から5年が経過し、防災への意識が薄れつつある。是非、住民の生命を守る観点から住民にハザードマップの重要性を周知していただきたい。繰り返しになるが自治体版タイムラインの作成も進めていただきたい。（前野アドバイザー）

【参加機関】
岡山市、真庭市、新庄村、美咲町、倉敷市、井原市、高梁市、浅口市、矢掛町、津山市、備前市、赤磐市、勝央町、奈義町、岡山県警察本部、岡山地方気象台、中国電力㈱、西日本電信電話㈱、岡山ガス㈱、山陽SC開発、テレビせとうち、岡山県、中国四国農政局、岡山河川事務所
【オブザーバー】玉野市、広島県

26機関